

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujiidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第10号 2012年12月

藤井寺市民まつり(しゅらまつり) 9月16日(日)

《メインステージ》 「こぶん 今 むかし」

今年も昨年と同じ「古市古墳群を世界遺産に」をスローガンに「こぶん 今 むかし」と題して子供達の参加を得て開催した。会員による基本ストーリーに川上恵氏のご協力を得て、台本が作成され、リハーサルも重ね本番にいたる。当日は会員手作りの古墳みこしを背景に、応援に駆けつけてくれたまなり君をはじめ、みんなの演技に熱がはいる。さすがに本番では誰もが緊張の連続であったが、最後まで堂々と演じ終えることができた。参加協力してくれた多くの子供達によって、見事に今の古墳から昔の築造当時の古墳が蘇り、子供達も多くの会場の皆さんも目を見張っておられたのが印象に残った。最後に会場のみなさんと一緒になって「古市古墳群の世界遺産を目指して頑張ろう！エイ・エイ・オー！」のエールを力強くおくり無事終了することが出来た。

ご協力いただきました株式会社緒方工務店、山田紙管株式会社、そして川上恵氏に感謝いたします。(中島)



《古墳みこし製作日記》 こぶん 今 むかし 「蘇る古墳」

古市古墳群には素晴らしい「古墳」がたくさん残っている。それをもっとみんなに知ってもらうには如何すれば良いか？そんな思いから、現在は木がたくさん生えた緑の丘が、出来た当時の美しい古墳の姿に蘇るストーリーが生まれた。まず、模型を作製し、イメージを会員に理解してもらう。しかし、いざみこしを造る段階になると材料選びから難問が……。古墳本体は発砲スチロールを使用することにしたが、予算も限られたなかで、断熱材の建築端材を集め、難しい曲線カットのため「電熱切断機」を考案した。また丘の台枠コーナーの固定が番線の張力に負けて定まらない時に「筋交い」を提案。埴輪作りでは「紙管」に毛糸を巻き、その立体感を表現するなど、何しろゼロからの出発で壁にブチ当たりながら、その都度皆の知恵と工夫で乗り切って見事に「古墳みこし」が誕生した。



素晴らしい「古墳みこし」・素晴らしい「仲間達」 ありがとう。(中村)

《テントブース》 世界遺産のクイズ・紙芝居・手品

観光協会のテントブースでは、世界遺産関係のクイズ・藤井寺昔話の紙芝居、そして手品を行いました。クイズ用の景品を入れるケースは牛乳パックなどで会員有志が事前に集まって作り、景品は会員からの持ち寄り品を入れ可愛く出来上がりました。呼び込みなどで、朝一番からたくさんの子供達が、気軽にクイズに挑戦。9時すぎから始めて、10時半ごろには用意した景品がすべてなくなり、早めの店じまいとなりました。午後からは紙芝居と手品で再開。子供達から大人の方々まで最後まで熱心に見ていただきました。今年は内容も豊富でたくさんの方々に参加頂き、大盛況に終わりました。私達も楽しい一日となりました。(安田)



《小学校の世界遺産学習 フィールドワーク》 5月～7月

今年度より藤井寺市内全小学校(7校)の6年生を対象に世界遺産学習が行われることになりました。その一環で、郷土の文化的な資産を実際に見学するフィールドワークについて、当会が市文化財保護課の要請を受けお手伝いすることになりました。お手伝いの内容は古墳を中心に現地説明するもので、昨年まで一部の小学校から直接要望され経験しているものの、子供たちに短時間で理解をして頂くため、手作りの資料なども使って、7回にわたり660名を超える生徒に会員総がかりで取り組みました。

学校により若干説明場所が違ったものの、熱心にメモをとる子、校外学習を楽しんでいる子、鋭い質問をする子等々、いろいろな子供たちと接することができ、いっぱい元気頂きました。(岩崎)



《韓国全州市のご一行を歴史ガイド》

5月13日、韓国南西部全羅北道の全州チョンジュ市(10世紀初頭、甄萱キョソフを王とする後百済の都で、李朝朝鮮発祥の地)から6名の韓国の方(サポーターは日本人9名)をご案内しました。

最初は、緊張しましたが、お客様が熱心で、同行の韓国の方が上手に通訳されたので、非常に楽しくガイドができました。コースはお客様の要望で葛井寺・辛國神社・道明寺天満宮・道明寺・仲姫皇后陵古墳・応神天皇陵古墳を回り、説明には、古朝鮮(その時代の朝鮮)と倭の関係を多く取り入れながら丁寧に行ったので、ガイド終了後には握手攻めにあいました。

お互いの理解が深まったことから、意義ある出会いだたと感謝しています。通訳を通し、熱意をもって話したことにより、日本語の説明でも通じ合えましたが、将来は韓国語で説明したいというのが本音です。今後、世界遺産登録に向け、外国人に対するガイドも充実させて行くことが大切だと痛感しています。

なお、全州市は、韓屋村に代表される伝統的な建造物が多く残され、全州マッコリ(食べきれないほどのつまみができるようです)や世界遺産に指定されたパンソリ(伝統音楽)とハンチュム(伝統舞踏)などが有名な都市で、一度訪ねてみたいと思います。(寺田)

《樟葉の宮跡から鍵屋資料館まで》 5月23日(水)

本年度最初の現地研修は、市の貸し切りバスで枚方樟葉宮跡を主に、枚方周辺の遺跡を見学した。伝承地樟葉宮跡は、新緑の丘上にあり、ここで枚方観光ボランティアの方より詳しい説明を受け理解を深めた。晴天の王仁公園内で昼食をとり、午後から百済寺跡を訪れ、隣接する百済王神社の宮司さんから説明を受けた。

旧田仲家鋳物民俗資料館では、想像以上の文物を見聞できた。寺院の梵鐘づくりや特に大仏様の鋳造技術は、正にハイテクだ。

鍵屋資料館は、伏見と大阪を結ぶ淀川三十石船の船宿として、江戸時代に賑い、江戸時代の様式を残す歴史的建造物で、ここで豊富な展示物を見学し、小休憩をとった後帰路に着いた。

会員参加者と共に、種々貴重な文化財と事物を見聞でき、有意義な一日でした。(福村)



《秋季ウォーク “秋季ふじいでらウォーク+ワン” 》 10月27日(土)

—古市古墳群巨大古墳ビッグ10をめぐる part1— と題して今年も秋季ウォークを催しました。応神天皇陵古墳をはじめ6基の巨大古墳などをめぐるコースです。さわやかな秋晴れに恵まれ、150の方が参加していただきました。

集合場所の葛井寺の境内は、ハローウィンの行事と重なり、いつもと違うにぎやかさの中、20名ごとのグループに分けて順次出発。辛國神社、仲哀天皇陵古墳、仁賢天皇陵古墳を経て峰ヶ塚公園で昼食。遠く二上山を眺めながら秋の日差しを楽しみました。その後は日本武尊白鳥陵古墳、応神天皇陵古墳などを経てゴールの道明寺天満宮に。神社・お寺では入会されたばかりの新会員さんが、緊張のなか一生懸命頑張って説明されている姿が印象的でした。天満宮境内では“+ワン”の抽選会があり、最後まで楽しんで頂きました。遠くは鳥取県ほか市外



からの参加者が80%を占め、藤井寺・古市古墳群に関心が広がっていることを実感しました。なかには古墳について専門的な質問も飛び出て戸惑うこともありました。今回初めてアンケートもお願いし、貴重なご意見をいただくことができました。今後の活動に生かしていきたいと思えます。来季のpart2 も是非たくさんの方にお越しいただきたいと願っております。(鈴木)

《第17回 福祉まつり》 11月11日(日)

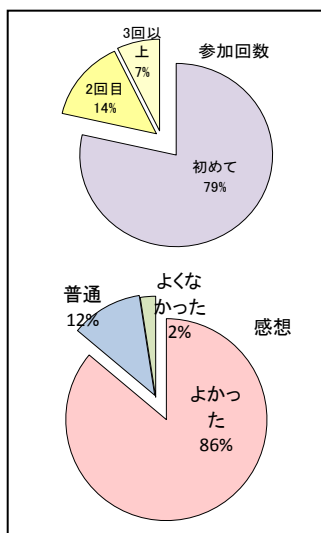
今年の福祉まつりは、「地域の力、やさしい心」をキャッチコピーに開催。当日は、朝から雨の一日でしたが、たくさんの方が来られ、福祉まつりが地域に根付いたのを感じました。

四階会場で、藤井寺の民話紙芝居(朝・昼 2回)と、塗り絵(6種類)を行いました。紙芝居は60名、塗り絵は230名と午後は席が足りなくなるほどの盛況でした。紙芝居は、お母さんや家族のひとたちにも楽しんでもらい、塗り絵では、一生けん命塗り、出来上がった時の子供たちの満足げな顔に、思わず私達も笑顔になってしまいました。



3年目になる紙芝居と塗り絵。福祉まつりに来る子ども達の楽しみになっているようで、大変うれしく思いました。(藤村)

《秋季ウォークアンケート結果》



<情報源>

近鉄情報誌	42
チラシ	20
仲間	18
市の広報	17
毎日新聞	10
当会HP	5
近鉄電車	5
掲示物	4
その他	8
小計	129

その他の詳細

史遊会 2 ネット 2 ラジオ 1 大阪ミュージアム 1
市観光課 1 会社内 1 (合計 8)

《上半期ガイド実施結果》

平成24年度上半期(4月～9月)のガイド実施報告は次のとおりでした。

ガイド件数は14件で計633人の方々を案内しました。

今年度は、当会設立以来初めて「近鉄駅長お薦めフリーハイキング」でのガイドを経験しました。今後は、古市・百舌鳥古墳群世界遺産登録を控えて、当会主催の春季・秋季ウォーク以外にも100人を超えるお客様のガイドをする機会が増えることが予想されます。また、年度初めには、市内小学校の6年生の世界遺産学習のお手伝いを行い、将来を担う子供達との交流を図ることができました。(樽野)

津堂城山古墳の石槨天井石(その二)

この巨大な石棺の存在が明らかになった明治の末年には、すでに陵墓の治定^{しじょう}は完了していて、城山古墳を陵墓に加えることはかなり難しいことだったのです。そこで、宮内省は一計を案じ、城山古墳の後円部頂を陵墓参考地とし、出土した遺物を宮内省に収納し、石棺を現地に埋め戻してこの件の落着を図ったのです。大正 6 (1917)年のことでした。

一方、石槨天井石(7乃至8枚で構成)は次々と後円部から降ろされました。その一は津堂八幡神社の記念碑に加工されました。その他は津堂専念寺、津堂の民家、小山善光寺で庭石として、また、忠魂碑に加工されたものもありました(現在葛井寺境内)。このうちの津堂八幡神社の記念碑は、表面が劣化し、剥落が目立つようになってきていました。この事態を憂慮した八幡神社総代は、記念碑の文化財としての重要性を考慮され、これをガイダンス棟前に移動させ、朝日新聞社の事業助成を得て保存処理を行うという英断を下されたのです。保存処理は、専門業者によってドイツ・ワッカー社製の石材強化剤を含浸させ、石質の強化をはかることになりました。(つづく) (文責 藤井寺教育委員会 天野末喜)



石材の石材強化剤含浸作業
(藤井寺市教育委員会)

古墳のある風景 1 川上 恵

車窓から

近鉄電車が藤井寺駅を出、土師ノ里・道明寺駅と進むにつれ、小高い丘のようなものがポカリポカリと出現し、車窓を流れる。古墳である。やがて古市駅近くになると、深い緑のなだらかな小山が、窓一杯に広がる。

仁徳陵の次に大きい、いや体積では日本で一番大きい「応神陵古墳」だ。藤井寺市と羽曳野両市に点在する古墳群は「古市古墳群」と呼ばれ、44基が現存する。

古代この地には「河内王朝」なるものが存在したという。倭の五王と呼ばれる王達の陵墓もある。王達は千数百年もの長きにわたり、人々の暮らしを眺めてきた。そして今も見続ける。なんという謎を潜めたロマン、そして神秘……。

大和を国のまほろばと呼ぶなら、河内は「黎明の地・母なる地」と言えるかもしれない。古墳と共にあるこの地に華やかな風景はないが、おおらかな明るさが広がる。今も当時と同じ土と川の匂いがする。古代と同じ風が吹く。

《川上恵氏プロフィール》

藤井寺市在住のエッセイスト。各地で随筆講師をつとめる。各種活動に活躍。著作「いのまなり」ほか多数。

* 「百舌鳥・古市古墳群 世界遺産登録に向けて」は9回で終了いたしました。



古墳を縫って走る近鉄南大阪線